

## ～「community center ZEL」代表の 太田ふとし様へ、インタビューをしました～

令和5年8月17日に、宮城県仙台市で先駆的にHIVについて啓発活動を行っている団体である「community center ZEL」の太田ふとし様に、近年のコロナ感染症前後の活動状況や、性的マイノリティの方を取り巻く社会の変容など、色々なお話をZOOMを用いてインタビューさせていただきました。

Q1. 「community center ZEL」の活動では、現在どのようなことに力点を置いて活動や発信をしていますか？

A. 拠点は仙台で約1,000の方が参加されており、性的アクティブな方へ向けた活動を主に行っています。東京と比べ東北では情報が入りにくい状況があるため、講座や啓発活動の実施や、PrEP（プレップ：暴露前予防内服。Pre-exposure prophylaxisの略）という「抗HIV薬」を用いてHIV/エイズ予防法の選択肢の提案と発信を中心に力を入れて取り組んでいます。東京と比べ東北地方は自分のことを多く語らない方が多いため、HIV陽性になっていることは「秘密中の秘密」になっています。

Q2. 新型コロナウイルスによる行動制限を様々な部分で感じましたが、コロナ感染症以前と、コロナ感染が2類から5類になった今とで、「ZEL」の活動内容に変化はありましたか？

A. 行動制限や時間制限がある中で、仙台の方は比較的利用をされていました。最近増えてきていた山形や福島からの利用者は減少傾向になってきたり、集まっても密になることは少なくなってしまう、という影響はありました。

Q3. コロナ感染症が5類になったことにより、様々な制限が解除されてきた今、「ZEL」の活動で前向きに期待していることや逆に不安視していることはありますか？

A. 現在も特に変わりません。コロナ禍では性的アクティブな方々にとって、「性生活に対してどうすればいいのか」という声は多く聞かれていましたが、アメリカの疾病予防管理センター(CDC)の情報提供など、初期の頃から情報発

信をしてきました。現在においても、換気やマスクなど予防策をしながら行っています。

Q4. 以前よりもLGBTの話題が、世界的に、そして日本のマスコミでも大きく取り上げられるようになり、社会が性的マイノリティに対する捉え方について変わってきているように感じます。「ZEL」の活動の中でも、太田様やその周囲の方々にとって、変化はあったのでしょうか？

A. 特に変わっていないと思います。「ZEL」はゲイ・バイセクシュアル男性向けのコミュニティセンターです。ジェンダーレストイレの話があったけれど、元々の生活が一番不自由だったのはトランスジェンダーの人たちだと思います。ゲイの人もレズビアンの人でも自認する性と一致しているから、生活していて見た目にはわからないですから。また、統計をとったわけではないけれど同性婚を求めているのはゲイの人よりもレズビアンの人の方が多い印象があります。それから、ある年齢層から上の方はLGBTパレードも否定的です。そっとしておいてほしいという思いもあります。権利を主張する層の声が大きくなっていると思います。実際の当事者の思いとは乖離があって、声の大きい人の意見が大きく取り上げられているというような印象はありますね。

Q5. この度、『性的指向及びジェンダーアイデンティティの多様性に関する国民の理解の増進に関する法律』が公布・施行されたことを受け、今後の啓発活動にどのような変化がもたらされそうか、若しくは変わらないか、お考えをお聞かせいただけますか？

A. 特に変化はないです。「community center ZEL」の活動はゲイ・バイセクシュアル男性の方に限定しており、それは今後も変わらないです。法律のことは特に周りでも話題にはのぼらなかったです。

Q6. 数年前と比べるとHIVに感染した時に、ご家族やパートナーの方と一緒に受診されている方が増えてきた印象があります。個人の境遇や環境なのか、そもそも社会として受け入れられやすくなってきたのか、どのような理由があるとお考えでしょうか？

A. パートナーも感染している可能性があるもので、わかっていた方が良いということだと思います。U=U\* (Undetectable: 検出限界値未満=Untransmittable: HIV感染しない) のこともあってパートナーに言いやすくなって本人も楽になったと思います。あとはパートナーがPrEP(曝露前予防内服)をしたい、パートナーにしてもらいたい、という時などには一緒に受診すると思います。一方で家族には一番言いつづらなくて、友達や職場には言っても家族には言えないという人は多いです。そういう意味では社会の受け入れが進んだということかもしれないです。また、若い人は比較的カムアウトしやすいようです。この前大学生

の子がお母さんにカムアウトしたときに特に驚かれなかったと言っていました。社会の雰囲気もあるのかもしれないですね。

Q7. 治療開始時に自立支援医療の案内をしています。ソーシャルワーカーから確認することはないですが、感染経路をカルテから知ることになります。様々な状況の方がいますが、あくまで本人が疾患について知らせても良いと思っている範囲を確認するようにしています。(連絡手段・書類の受取方法や自治体との連絡等)特に意識した方が良い事はありますでしょうか。

A. 普段の業務のなかでも SW は秘密保持という点は気を付けていると思いますので、同じような取り扱い方でよいと思います。エイズに感染している方だからと言って特に意識した方がよいことはないと思います。制度の説明に関してのところであれば、中には制度を申請することで職場に知らされるのではないかと不安をもたれる方がいます。

Q8. 今までの太田さんの活動の経験から、カミングアウトの必要性について、お考えがあれば、お聞かせ願えますか？私たちの職務上、どこまで触れていい話題なのか、正直考えてしまうことがあるのです。支援者の心構えとしてお伺いしたいと思います。

A. やはり大切なのはその方の意向であり、その方が自ら話すかどうかだと思います。ある医療機関での出来事を例に挙げますと、ある病院に救急搬送されてきた方が HIV に感染されていました。その方の病状が重篤な状態であった為、意向の確認をしないまま医師の判断でその方の家族に HIV に感染されているとお話したということがありました。本人に基本的に委ねるのがいいのだと思います。また、本人が伝えるのを待つということも必要だと感じます。

Q9. エイズ啓発に関わる SW に求めることや、今後期待したいなと思う事、こんな活動をして欲しいなど、ご意見やご要望、お気持ちなどお伺いさせていただきます。

A. 医療機関の SW は、私たちにとっても一番「相談しやすい存在」「話しやすい存在」「頼りになる存在」だと思っています。私たち以外の方たちにとってもそうだと思います。普段の業務でもされていると思いますが、相談に来られた方の話に耳を傾けて相談を受けていただきたいと思います。

~~~~~



「U=U※」とは…効果的な HIV 療法を受けて、血液中の HIV の量が検出限界値未満(Undetectable)のレベルに継続的に低く抑えられている HIV 陽性者からは、性行為によって他の人に HIV が感染することはない。つまり、「検出限界値未満の陽性患者は=HIV 感染しない」ということを表すメッセージです。

## ～インタビューを終えて～

「ZEL」という HIV/AIDS の情報発信をしているところがあると今回知り、日常で HIV 感染者とのかかわりや支援をすることが少ない中で、表面化しなだけで陽性者の方やエイズに関して情報を求めている方も多くいらっしゃるのだと知ることができました。陽性者とのかかわりについても支援時にどうかかわればよいかと慎重になる部分がありましたが想像以上に身構えずに関わることで関係性を築くことができるのかなと感じました。

また、このインタビューを通して、もっとコミュニケーションが取れる場面づくりが出来ないかと考えていくようになりました。今後委員のみならず、協会の会員の方々に対しても、広く知ってもらえる場づくりが出来るように企画できればと考えます。

エイズとソーシャルワーク委員会 佐々木・沖田・岩崎・南雲

### community center ZEL の紹介

- ・ community center ZEL  
→ HIV/AIDS の情報発信を目的としたゲイ・バイセクシュアル男性向けのコミュニティセンター
- ・ 利用料→無料
- ・ アクセス  
→ 仙台市青葉区国分町 3-3-5 リズビル 9 階  
TEL/FAX 022-261-6556 、 sendai865@yahoo.co.jp
- ・ 開館時間  
→ 月・火・金・土 18:00-22:00 日曜・祝日 15:00-20:00
- ・ 休館日  
→ 水・木(祝日の場合は開館)、第1日曜日、年末年始  
※通常の開館時間中は、女性およびストレート男性(異性愛男性)はご入場をご遠慮ください。
- ・ ホームページ  
→ <http://sendai865.web.fc2.com/about.html>
- ・ SNS  
→ X(旧 Twitter): ZEL & やろっこ @sendai865  
HIV/AIDS の情報をはじめ、ゲイタウン情報、イベント情報、サークル情報などを発信しています。

